「肥後アマビエ戀歌異聞」制作と浄瑠璃教室

令和五年度くまもと県民カレッジ　パレアミュージアム【前期】
場所　くまもと県民交流館パレア十階　会議室七
日時　令和五年九月十一日（月）午後二時～午後三時半

清和文楽館　学芸員　東　美香　氏
太夫・三味線　岡本　翔　氏

1

学芸員　東　美香　氏

清和文楽のはじまり

清和文楽は、江戸時代嘉永年間（一八五十年頃）この地を訪れた淡路の人形芝居一座から浄瑠璃好きな村人が人形を買い求め、技術を習ったのが始まりといわれています。

清和文楽はなぜこの地に受け継がれてきたのでしょうか？

清和文楽は神社の奉納芝居として伝承されてきました。この地域には農村舞台が当時五カ所（現在は二カ所）あり、春秋の祭りで定期的に催されてきました。

地域の暮らしと文化に溶け込み、親から子へと伝承され育まれてきました。

昭和三十五年　文楽人形の技術保持者二名

熊本県の無形文化財に指定

昭和五十四年　清和文楽人形芝居

熊本県の重要無形文化財に指定

これを機に「文楽の里」をキャッチフレーズに村おこしで清和文楽の再生に取り組む。

平成四年　「清和文楽館」の建設

九州唯一の人形浄瑠璃専用の劇場

毎年二百回前後の公演

2

「肥後アマビエ戀歌異聞」について

【清和文楽館】　コロナ禍の中、人形浄瑠璃の公演もままならない日々に、文楽人形を熊本ゆかりのアマビエに模し鎮静化を願ったSNSを発信。

【熊本県立劇場】　若い人たちに自分たちの足元にある素晴らしい伝統芸能を伝えたい。地元にいる才能のある方々の活躍を発信したい。伝統芸能を現代的にアレンジして蘇らせたい。

コラボレーション

県立劇場のネットワークを駆使して

兵庫県淡路の人形浄瑠璃の先生以外は

オール熊本でチーム作り

人形遣い　清和文楽人形芝居保存会
衣装制作　熊本デザイン専門学校生の皆さん
原案脚本　劇団市民舞台・松本眞奈美氏
プロデュース・舞台製作　熊本県立劇場
作調（鳴り物）中村花誠氏
作調（笛）藤舎仁鳳氏
大道具　吉本美術

アマビエは、何故「私の絵姿を写して」と言ったのか？

肥後に伝わる「アマビエ伝説」の前段のお話

清和文楽オリジナル作品

肥後の国の海底深くに棲む竜王の娘「あま姫」は時化に巻き込まれた肥後藩士凪尾剛之進を助けます。

第一景　遭逢の段
第二景　別離の段
第三景　邂逅の段

ユーチューブでダイジェスト版を見ることができます。

3

人形浄瑠璃は、太夫・三味線・人形が一体となり登場人物のせりふ、会話、物語の展開、情景を表現します。

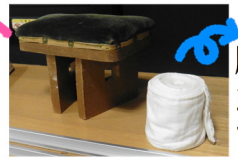
太夫は、場面の情景、物語の背景、登場人物全員の言葉など全て一人で語り分けます。

三味線は、太夫の語りと一体になって義太夫節の情を表現します。浄瑠璃で使うのは太棹三味線です。

太夫・三味線　岡本　翔　氏

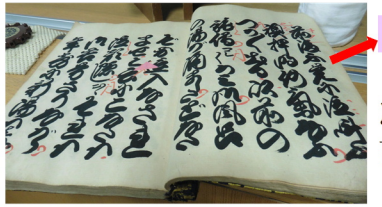
尻助

義太夫の独特の発声はこの椅子があってこそできます。つま先を立てて座ります。



腹帯

腹式呼吸のため腹にきつく巻きます。



床本（台本）

１ページ５行のため５行本とも言います。

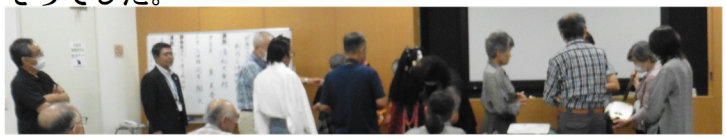
太夫は師匠から譲り受けた床本で、息継ぎ箇所、語りの速度や微妙なイントネーション、節回しの注意点などすべてを師匠から口伝えで教えてもらいます。浄瑠璃文字という特殊な書体で書かれています。

4

本日の講座のラストは、受講生が自由に人形を動かしたり、三味線に触れたりできるワークショップでした。

「あま姫」が「妖怪アマビエ」の顔に変化する動きにチャレンジする人や、衣装の豪華さやビーズの縫込みなどの細かい仕事に心惹かれる人、三味線の心得がある方は太棹を抱えて音色の違いを確認されていました。また床本の太い書体が読めないなりに魅力的でした。

日頃触れることのない文楽人形との撮影に受講生も楽しそうでした。



人形遣い

文楽では人形を繰ることを「遣う」と言います。人形の頭と右手を遣う「主遣い」、左手を遣う「左遣い」、足を遣う「足遣い」の三人で一体の人形を遣います。三人の人形遣いが息を合わせて繰り、微妙な動きから心情まで生身の人間以上の感情を表現します。

清和文楽館のご案内

住所　熊本県上益城郡山都町大平１５２
休館日　火曜日（祝祭日は開館）・年末年始
営業時間　９：００～１７：００
清和文楽資料館　文楽上演がない日も見学できます。
定期公演　7月～11月　毎週日曜日　13:30～14:30
12月～ 6月　第2・第4日曜日

出張公演やワークショップなども開かれています。

くまもと県民カレッジ・パレア広報ボランティアC・M作成